

透析を受けている心房細動患者へのワーファリンの使用で 脳卒中や出血のリスクは軽減しない

透析を受けている心房細動患者に対するワーファリンの使用と脳卒中や出血のリスクについて、近年の観察研究の結果は一貫していない。そこで本研究では、1998年から2007年までのカナダのケベック州、オンタリオ州の病院に心房細動で入院した65歳以上の患者を対象に後ろ向きコホート研究を行った。対象者を透析群（血液透析および腹膜透析）と非透析群に、そしてワーファリン群と無ワーファリン群に分け、透析患者と非透析患者のワーファリン使用と脳卒中や出血のリスクとの関係について検討した。対象者は透析患者1,626人、非透析患者204,210人であった。透析患者のうち、46%（756人）がワーファリンを使用していた。透析患者では、ワーファリンを使用している患者の方がワーファリンを使用していない患者と比べて、うっ血性心不全や糖尿病がより多かったが、過去の出血のイベントは少なかった。潜在的交絡因子を補正したところ、透析患者ではワーファリンの使用は、ワーファリンを使用しない場合と比べて、脳卒中のリスクをより軽減することはなく（危険率は1.14）、出血のリスクは44%高かった（危険率1.44）。

したがって、透析を受けている心房細動患者へのワーファリンの使用により、脳卒中のリスクを軽減する効果はなく、出血のリスクはより高くなることが示唆された。

出典：Circulation. Published online before print Jan. 22, 2014, doi: 10.1161